

**2026年度  
一般社団法人 CIEC 定時社員総会  
議 案 書**

**2026 年 8 月 18 日(火)  
東洋大学 赤羽台キャンパス  
(東京都北区赤羽台 1 丁目 7 番11号)**

## 【2026年度一般社団法人 CIEC 定時社員総会 議案】

|                                         |     |
|-----------------------------------------|-----|
| 第 1 号議案:2025年度事業報告と 2026年度事業計画承認の件..... | P3  |
| 第 2 号議案:2025年度決算報告承認の件                  |     |
| •財政報告.....                              | P8  |
| •貸借対照表.....                             | P10 |
| •損益計算書.....                             | P11 |
| •計算書類の注記表.....                          | P12 |
| •附属明細書.....                             | P13 |
| •監査報告書.....                             | P14 |
| 第 3 号議案:2025年度収支差額処分承認の件.....           | P15 |
| 第 4 号議案:2026年度予算承認の件.....               | P16 |
| 第 5 号議案:CIEC役員選挙実施の件.....               | P19 |

## 【資料】

|                                    |     |
|------------------------------------|-----|
| 資料 1. 2025年度活動報告と 2026年度活動方針 ..... | P20 |
| •専門委員会                             |     |
| •部会                                |     |
| •支部                                |     |
| 資料 2. CIEC 活動報告.....               | P32 |

## 2026 年度一般社団法人 CIEC 定時社員総会議案書

### 第 1 号議案：2025 年度事業報告と 2026 年度事業計画承認の件

1996 年 7 月に設立された CIEC は、2013 年 6 月から一般社団法人 CIEC として、設立以来の目的を引き継ぎながらこの 10 年あまりの間活動してきました。本議案では、2025 年度の事業報告と 2026 年度の事業計画を提案いたします。

個々の専門委員会部会等の活動報告は、それぞれの委員会や部会報告等にゆだね、ここでは全体に関わる 2025 年度の取り組みの要点と 2026 年度事業方針について記します。

#### 1. 生成 AI 時代における人間らしさと学習・教育

CIEC は 1996 年 7 月にコンピュータ利用教育協議会として設立され、2013 年 6 月に一般社団法人 CIEC となり、教育と学びにおけるコンピュータおよびネットワークの利用のあり方等を研究し、その成果を広く普及するとともに交流する活動を続けてまいりました。

2020 年代半ばにおいてこうした領域を考え、実践するうえで生成 AI は避けて通れないトピックです。2025PCC のテーマ「教育・学習における常識の革命」を受け、2026PC カンファレンスのテーマは「AI 時代における人間主体の学習と教育」です。これらはさらに広く深く展開する生成 AI と教育・学習の現場が今後どのように向き合うかをみなさんと考えるための機会になればと思います。

生成 AI をめぐる議論は、ここ数年で大きく転換しました。かつては「教育現場に AI をどう導入するか」が問いの中心にありましたが、2026 年現在、その問いはすでに変容しつつあります。スマートフォンがそうなったように、生成 AI はいまや学習環境において「使うかどうか」ではなく「ある前提で」存在するものとなっています。問われるべきは道具としての活用法ではなく、AI とともにある学びがいかなる思考・創造性・批判的実践を育むかという問いへと移行しています。生成 AI が一方的に私たちの心理や思考、学校や教育のあり方に影響を与えるのではなく、それらをまさにメディア＝媒介するものとして、私たちの教育・学びをどのように展開するかを私たちみんなで構想していく段階になっているのではないのでしょうか。

世界に目を転じると、ウクライナやパレスチナに加え、2025 年以降のイランをめぐる地政学的緊張は、中東における不安定さをいっそう深刻なものとしています。こうした紛争や危機の現場において、AI が生成するディープフェイクやナラティブ操作が情報戦の道具として機能し、国際社会の分断を加速させていることも見逃せません。テクノロジーは、戦場においても情報空間においても中立ではありません。ここに人間の倫理観や価値観を持って臨むことの重要性が見いだせると思います。

こうしたグローバルな状況は、教育の問題と切り離すことができません。教育は学校のなかで完結するものではなく、AI が媒介する情報環境を通じてグローバル社会と接続されています。AI リテラシーはもはや技術スキルの問題にとどまらず、民主主義・平和・人権と深く結びついた市民的実践の問題でもあります。CIEC の学会活動における研究や交流が学習・教育に貢献するに留まらず、より広く、より良い社会の実現に寄与する力となるよう祈念します。

## 2. PC カンファレンスをより一層充実した学びあいの場へ

「2025PC カンファレンス(以下、2025PCC とする)」は、2025 年 8 月 21 日～23 日に鹿児島大学教育学部・郡元キャンパスを会場とし、全国大学生生活協同組合連合会との共催のもと、600 名の参加者が集いました。

2025PCC のテーマは「教育・学習における常識の革命」でした。初日には島田敬士先生(九州大学)による「データと AI が導く学びの未来:ミクロな分析からマクロな学習変革へ」と題した基調講演が行われ学習分析(ラーニングアナリティクス)を軸に、ミクロ(個人レベルの学習活動)とマクロ(組織や長期間にわたる学習支援)の視点を統合しながら、データと AI がもたらす教育の未来を展望が語られました。基調講演に続くシンポジウム「学びの変革と支援の可視化から何が見えてくるか?」では、多様な視点から活発な議論が交わされました。また、分科会では、U-18 セッションの 21 件を含む 74 件の口頭発表、および 17 件のポスター発表が行われました。発表内容は多岐にわたりましたが、特に生成 AI の教育現場における利活用は昨年に引き続き多くの研究、実践が報告されました。これらのセッションを通じて、参加者はそれぞれの研究成果や実践事例を共有し、新しい教育のあり方を探る有益な情報交換の場となりました。さらに、イブニングセッションも 6 件が開催され、台風の影響もありながらも活発に交流、議論ができました。

「2026PC カンファレンス」は東洋大学赤羽キャンパスで、8 月 17～19 日に開催予定です。全体テーマは、「AI 時代における人間主体の学習と教育」です。基調講演では「AI 時代の教育パラダイム・シフト」と題して、東洋大学 INIAD cHUB 機構長・教授の坂村健先生にお話しいただきます。生成 AI は 2026 年現在、社会の「基本 OS」となりつつあります。あらゆる分野で変革が迫られる中、最もパラダイム・シフトが必要なのに遅れているのが「教育」です。かつて肉体労働が重機の登場で一変したように、現代は知的作業を圧倒的な力で拡張する「知の重機」としての AI が普及する時代となっており、ここで教育に求められるのは「手で石を持ち上げる体力」ではなく、巨大な重機に自らの価値観で的確に指示を与え、最終結果に責任を負う「操縦者(オペレーター)」の育成であるという認識のもと、AI 前提の学習と教育のあり方をお話しいただきます。

続くシンポジウムでは基調講演を踏まえて、「人類の進化 × AI の進化 × 教育の深化」と題し、基調講演に続き坂村先生に加えて桜美林大学・田中一孝先生、立命館大学・近藤 雪絵先生をシンポジストに、CIEC 会長の飯吉透先生を迎えます。生成 AI の普及や Agentic AI・Physical AI の台頭によって社会や生活・仕事のあり方を大きく変えつつあるなかで、AI が高度化し、知識生成や問題解決の多くを担う社会において、人間が学び教える意味はどこにあるのか。また AI ができることが急拡大する時代に、学習・教育の意味・価値・目的は何なのかを、大学・学校教育から個人の学習に至るまで、教育現場での事例を踏まえて広範に多様な観点から再考し模索する機会にしたいと思います。

## 3. みんなが参加できる、成果を共有できる、専門委員会／部会／支部の活動の広がり

専門委員会は、研究委員会、会誌編集委員会、広報・ウェブ委員会、国際活動委員会の 4 つの委員会が理事会のもとに置かれています。

研究委員会は、自ら CIEC 研究会の企画実施を担当するとともに、各部会等が開催する研究会の調整・管理を行っており、今年度も研究大会として 2026 年 3 月 26 日東京理科大学にて「CIEC 春季カン

ファレンス」を開催し、「CIEC 春季カンファレンス論文集 Vol.17」を刊行しました。一般論文 12 件、ショートペーパー4 件、U-18 論文 15 件の報告があり、参加者は 100 人を超える盛況ぶりでした。

会誌編集委員会は、会誌『コンピュータ&エデュケーション』の編集を担当し、59 号と 60 号を刊行しました。会誌 49 号からオンライン投稿・査読システム Editorial Manager を導入し、継続して運用しています。また 2025PC カンファレンスで、セミナー「論文執筆における生成 AI の利用 ―基本原則を定めるための議論―」を開催しました。

広報・ウェブ委員会は CIEC の広報全般、特にウェブサイトの運営等に取り組み、会員への情報提供、社会への発信等を強めることを目的に活動しています。2025 年度は、例年と同じく CIEC 公式サイトおよび SNS ツールの運用や、2026PCC 公式サイトの 4 月の公開と運用を続けています。Web サイトについては各委員会等による自主的な運営ができる体制が軌道に乗ってきているが、それぞれの CMS(コンテンツ管理システム)上の権限では更新できない範囲、過去とは違った作業が必要となる場合には広報・Web 委員会として対応を行いました。

国際活動委員会は、国際活動の企画・運営を担当し、研究会の開催等を通じて情報提供をすすめています。2025 年度国際活動委員会では、CIEC 会員が海外の教育関連情報を収集できるよう支援する取組の一環として、サイバー大学および AI プラットフォームに焦点を当てた韓国視察を企画・実施しました。

部会は、会員の自発的な組織として始まり、小中高部会、生協職員部会、数理・データサイエンス・AI 教育研究部会(MDASH 研究部会)、教育実践イノベーション研究部会が活動を展開しています。また 2025 年 9 月に新たに CIEC WiN(Women in Network)が立ち上がりました。

小中高部会は関東、関西、北海道の 3 地区に拠点を拡大して活動をすすめ、PC カンファレンスでセミナーの企画開催、U-18 部門にかかわる発表支援・運営・審査協力を行いました。一昨年からの新たな試みである、小規模でインフォーマルな気軽に参加できる会としての「CIEC サタデーカフェ」の開催が 2026 年 1 月には 45 回を迎え、継続的に開催されています。

生協職員部会は、教育・研究に貢献する生協事業の可能性を追求する研究会、教職員・学生・生協職員の年代や立場を超えた相互に学び合えるネットワークづくりなど、多様な活動をすすめています。2025PCC では「学生の学びと ICT 活用を考える」と題したセミナーを開催し、学生の学びにおける ICT の使い方と、生協が提供する PC 有料講座などの内容がいまの学生の実情に合っているかを、当事者の声をもとに確かめたものである。前半の報告を受け、後半はモデレーターと登壇者による意見交換を中心に進行了しました。

数理・データサイエンス・AI 教育研究部会(MDASH 研究部会)は 2025PCC ではセミナー「データ系コンペ参画を通した AI・データサイエンス正課外教育の拡充」を実施し、また 2026 年 3 月 15 日には学生協杉並会館およびオンラインのハイブリッド形式で「生成 AI 時代におけるレポート・論文作成支援」と題した研究会を開催しました。

教育実践イノベーション研究部会は、2025 年度、PC カンファレンス 2025 のイブニングセッションを企画・実施しました。イブニングセッション「日常的な教育実践の可視化と共有から始める『教育・学習における常識の革命』(交流型)では、PCC2025 のテーマである「教育・学習における常識の革命」を踏まえ、約 40 名の参加者と共に教育・学習経験や知見・アイデアをベースに情報・意見共有やディスカッションをおこないました。

CIEC WiN(Women in Network)は、女性研究者の課題を起点としつつ、多様な立場の研究者が参画する緩やかなネットワークとして、学びの継続を支える工夫の共有、ロールモデルの可視化、情報交換の場づくりを進めることを目的として設立された部会です。2026年2月に第1回インサイトサロンを開催し、自己紹介、関心テーマの共有、今後扱いたい話題に関する意見交換等を行いました。

支部は CIEC の地域組織で、各地域での会員の自主的活動の場として位置づけられます。現在、支部は北海道と九州の2つが活動しています。北海道支部では、2025年11月22日に、旭川工業高等専門学校で「アクティブラーニングでつながる・ひろがる・深まる学び」をテーマに PC カンファレンス北海道を開催しました。九州支部では 2025 年度は鹿児島大学教育学部で開催された PC カンファレンスが大きい節目になりました。鹿児島大学での全国版 PCC 開催は 2003 年以来となり、九州支部にとって九州 PCC を兼ねるものとして位置づけており、本年度は「九州全体で盛り上げよう」という意識のもとで取り組みが進められました。その一環として、カンファレンス開催前日には九州地区の生協職員(書籍担当・情報機器担当)による合同会議を開催し、PCC への参加動員を図りました。その結果、九州内からは生協職員約 35 名、学生(学生委員会等)約 45 名が参加し、地域全体で大会を支える機運が醸成されました。

#### 4. 個人会員の拡充を図り、団体会員との新たな関係の構築に向けて

個人会員は本年度 628 名(2026 年 4 月)となりました。近年は個人会員数が減少傾向にありますが、これに歯止めをかけられるよう、引き続き個人会員の「参加」の場を広げていくとともに、PC カンファレンスや研究会等への未会員の参加を促進し会員拡大に努めます。

また、団体会員は 72 団体(2026 年 4 月)であり、関係の強化については、今後新たな共同のキャンペーンや研究プロジェクトの創設等、団体会員とのコラボレーションを追求します。

#### 5. 広報、出版活動と「学会情報」の公開、発信にむけて

会誌への論文投稿も安定的に集まっております。会誌編集の進捗管理をオンラインで行う投稿審査システムを導入し、査読も確実に運営され、年 2 回の会誌発行を順調にすすめております。最新号を除く会誌は、J-STAGE で公開されており、最新号も発行の 6 か月後には公開されます。

また、Facebook、Twitter の CIEC 公式 SNS での情報発信を強化し、CIEC ホームページも内容も随時更新することにより、ニューズレターの他、各委員会、部会、支部からの情報発信が容易になっています。

さらに、CIEC 会員へのインタビューや対談、学びに役立つサービスの紹介などをお届けしている CIEC ホームページの「Special」では、これまで、会長発信企画「会長インタビュー」、各種表彰受賞者インタビューなどを発信してきました。その一部は、YouTube の CIEC 公式チャンネル(一般社団法人 CIEC)において、動画配信を行っています。今後、さらに充実させていく予定です。

## 6. 財政基盤の確立、事務局体制と役員選挙のあり方

近年、団体会員の退会が続いており、一般会員数も減少傾向が続いておりますが、特に COVID-19 感染拡大以降の企業等の大幅な減収減益は、団体会員の動向にも、大きな影響を及ぼしつつあると考えられます。非常に困難な局面ではありますが、引き続き、更なる収入増対策を検討する必要があります。

教育に関心のあるさまざまな個人や団体、企業に会員になってもらい、CIEC の場を通じて学び、交流することで、個人会員、団体会員の拡大、政府や企業等との共同研究の推進等で収入増対策をすすめるとともに、経費対策をすすめます。

また、終身会員制度について、メンバーズコメントの手続きを経て、永年会員への感謝と、学会活動への参加継続のため、終身会員制度の導入し、運用しています。

社員総会、役員選挙については引き続き電子投票制度を利用することにより経費削減を図り、CIEC の活動収支については厳密な運用管理と定期の会計報告と監査を受け、経費の透明性を確保し、税務当局への報告も明確にしています。また、D&I の観点からも女性役員の拡充に向けて努力しています。

日常的な CIEC 活動をすすめるために事務局は、副会長の中から事務局長を選出し、多くの事務を担当しました。2026 年度においても引き続き、メールによるコミュニケーションから、Slack などの新しいコミュニケーションツールの活用をすすめ、法人としての効率的な事務局活動を進めます。

以上

## 第2号議案：2025年度決算報告承認の件

## CIEC2025年度財政報告

## 〔概況〕

2025年度決算は経常利益が-1,116,848円の赤字となりました。収入面では、会費収益は個人会員数、団体会員数が大幅増加とならず、予算を下回りました。支出面では、周年記念事業費用は予算では100万円を計上しましたが未執行となりましたが、会誌発行費用が予算比+109万円(+32%)と大幅に上回りました。

(文中の金額は原則として1万円未満切り捨て。詳しくは損益計算書をご覧ください)

## 〔経常損益の部〕

## I. 〔経常収益〕

## 1. 会費収益 931万円／予算1,148万円

- ・ 個人会員会費収入は337万円で予算対比120万円の減(-26%)、団体会員会費収入は594万円で予算対比96万円の減(-14%)となりました。

| <会員状況> | 2025年4月1日 | 2026年3月31日 | 2026年4月1日 |
|--------|-----------|------------|-----------|
| 個人会員   | 621       | 662        | 628       |
| 団体会員   | 73        | 72         | 73        |

## 2. 財務収益 12,645円／予算2,000円

- ・ 受取利息 12,645円

## II. 〔経常費用〕

## 1. 事業費用 689万円／予算760万円

## (1) 会議費用 66万円／予算85万円

- ・ オンライン開催などにより支出は予算を下回っています。ただし、対面開催実施(理事会・研究委員会)した場合は予算を上回りました。

## (2) 会誌発行費用 449万円／予算340万円

- ・ Vol.59、Vol.60を発行しました。特にVol.60はページ数増や印刷費用・J-STAGE作業料のアップによりVol.58と比較し、+55万円(+35%)の費用増となりました。

## (3) 広報費用 0万円／予算10万円

## (4) 研究会費用 62万円／予算50万円

- ・ 3月に春季カンファレンスを開催と、春季カンファレンス論文のJ-STAGEアップのための費用を計上しています。なお、J-STAGEアップ費用は、2025年3月開催分と2026年3月開催分の2年間分の計上となったため、予算を上回りました。
- ・ 春季カンファレンス研究会論文集はPDF版のみ発行しています。

## (5) 調査費用 0万円／予算0万円

## (6) 事業活動費用 26万円／予算25万円

- ・ 三役の春季カンファレンス参加の交通費、Slackの有料プラン利用料を計上しています。

## (7) 支部活動援助金 59万円／予算65万円

- ・ 北海道支部28万円、九州支部31万円の実績です。各支部からは支部交付金の支給基準に沿って「活動報告・会計報告」が提出されています。

(8) 部会活動援助金 21 万円／予算 82 万円

- ・ 小中高部会 19 万円、生協職員部会 0 万円、数理・データサイエンス・AI 教育研究部会 2 万円の実績です。各部会からは部会交付金の支給基準に沿って「活動報告・会計報告」が提出されています。

(9) 学会表彰事業費 3 万円／予算 3 万円

- ・ 2025 年度は学会論文賞 1 件の実績です。

(10) 教育出版費用 0 万円／予算 0 万円

(11) 周年事業費用 0 万円／予算 100 万円

- ・ 理事会などで検討しましたが、2025 年度内での執行はありませんでした。2026 年度に具体的なとりくみを実施します。

(12) PCC 支援金 0 万円／0 万円

(13) 中期活動計画調査費用 0 万円／0 万円

2. 管理費用 359 万円／予算 388 万円

(1) ネットワーク運営費 4 万円／予算 5 万円

- ・ 保守管理業者委託費、サーバー更新料、ドメイン名登録更新料(お名前.COM/日本レジストリサービス)の費用です。

(2) 事務局通信費 22 万円／予算 25 万円

(3) 事務局業務委託費 300 万円／予算 300 万円

- ・ 全国大学生協連への支払い

(4) 事務用品費 7 万円／予算 15 万円

(5) 備品購入費 0 円／予算 10 万円

(6) 管理委託費 2 万円／予算 2 万円

- ・ 会計システム費用です。

(7) 雑費 23 万円／予算 30 万円

- ・ 振込や自動引き落としなどの各種手数料が主です。

(8) 予備費 0 円／予算 1 万円

(9) 租税公課 0 万円／予算 2 千円

(10) 外部委託費 0 万円／予算 0 円

#### 〔経常外損益の部〕

#### III. 〔経常外収益〕

雑収入 11 万円／予算 5 万円

- ・ 会誌販売収入および春季カンファレンス参加費等です。

#### IV. 〔法人税等〕

7 万円／予算 7 万円

- ・ 法人住民税 7 万円です。

#### V. 〔当期利益金〕

- ・ 2 万円の赤字予算に対し 117 万円の赤字となりました。

以上

# 計 算 書 類

## 第 1 貸借対照表

### 貸 借 対 照 表 2026年6月30日現在

(単位：円)

| 科 目    | 金 額       | 科 目      | 金 額       |
|--------|-----------|----------|-----------|
| (資産の部) |           | (負債の部)   |           |
| 流動資産   | 8,454,627 | 流動負債     | 5,569,026 |
| 現金及び預金 | 8,454,627 | 未払金      | 50,026    |
|        |           | 前受金      | 5,517,000 |
|        |           | 預り金      | 2,000     |
|        |           | 負債合計     | 5,569,026 |
|        |           | (純資産の部)  |           |
|        |           | その他      | 2,885,601 |
|        |           | 正味財産     | 2,885,601 |
|        |           | 繰越利益剰余金  | 2,885,601 |
|        |           | 純資産合計    | 2,885,601 |
| 資産合計   | 8,454,627 | 負債・純資産合計 | 8,454,627 |

注) この表は、「一般社団法人・財団法人法施行規則による一般社団法人の各種書類のひな型 (改訂版)」(2015年5月7日 経済団体連絡会)に準拠して作成しています。

## 第2 損益計算書

### 損 益 計 算 書

(自2025年7月1日 至2026年6月30日)

(単位：円)

| 科 目          | 金 額       |            |
|--------------|-----------|------------|
| (経常損益の部)     |           |            |
| I 経常収益       |           |            |
| 1 会費収益       |           |            |
| 1) 個人会員会費収入  | 3,372,000 |            |
| 2) 団体会員会費収入  | 5,940,000 |            |
|              | 9,312,000 |            |
| 2 財務収益       |           |            |
| 1) 受取利息      | 12,645    |            |
|              | 12,645    | 9,324,645  |
| II 経常費用      |           |            |
| 1 事業費用       |           |            |
| 1) 会議費用      | 662,117   |            |
| 2) 会誌発行費用    | 4,498,651 |            |
| 3) 研究会費用     | 629,085   |            |
| 4) 事業活動費用    | 261,700   |            |
| 5) 支部活動援助金   | 598,539   |            |
| 6) 部会活動援助金   | 214,923   |            |
| 7) 学会表彰事業費用  | 30,000    |            |
|              | 6,895,015 |            |
| 2 管理費用       |           |            |
| 1) ネットワーク運営費 | 41,274    |            |
| 2) 事務局通信費    | 226,335   |            |
| 3) 事務局業務委託費  | 3,000,000 |            |
| 4) 事務用品費     | 71,579    |            |
| 5) 管理委託費     | 20,000    |            |
| 6) 雑費        | 232,290   |            |
|              | 3,591,478 | 10,486,493 |
| 経常損失         |           | 1,161,848  |
| (経常外損益の部)    |           |            |
| III 経常外収益    |           |            |
| 1 その他経常外収益   | 114,480   | 114,480    |
| IV 税引前当期純損失  |           | 1,047,368  |
| V 法人税等       | 70,000    | 70,000     |
| VI 当期純損失     |           | 1,117,368  |

注) この表は、「一般社団法人・財団法人法施行規則による一般社団法人の各種書類のひな型（改訂版）」（2015年5月7日 経済団体連絡会）に準拠して作成しています。

### 第3 計算書類の注記表

#### 1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

##### ① 計算書類及びその附属明細書の作成基準

一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して作成しています。

##### ② 資産の評価基準及び評価方法

###### (1) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込方式によっています。

#### 2. 損益計算書に関する注記

(1) 法人税等は当期の法人住民税が含まれております。

#### 3. 金融商品に関する注記

##### (1) 金融商品の状況に関する事項

当法人は、運転資金はすべて自己資金でまかなっています。

未収金は、回収期間は1年以内です。

未払金は、事業に係る費用の支払であり、1ヶ月後に支払うものです。

前受金は、次年度の会費です。

##### (2) 金融商品の時価等に関する事項

2026年6月30日における貸借対照表計算額、時価及びこれらの差額は次のとおりです。(時価の算定方法については(注1)を参照)。また、重要性の乏しい科目については記載を省略しております。

(単位：円)

|       | 貸借対照表計上額  | 時 価       | 差 額 |
|-------|-----------|-----------|-----|
| ①現金預金 | 8,454,627 | 8,454,627 | -   |
| 資産計   | 8,454,627 | 8,454,627 | -   |
| ③前受金  | 5,517,000 | 5,517,000 | -   |
| 負債計   | 5,517,000 | 5,517,000 | -   |

#### (注1) 金融商品の時価の算定方法に関する事項

##### ① 現金及び預金

預金はすべて短期であるため、時価は帳簿価格と近似していることから当該帳簿価額によっています。

##### ② 前受金

前受金はすべて短期であるため、時価は帳簿価格と近似していることから当該帳簿価額によっています。

## 附属明細書（計算書類関係）

### 主な資産および負債の明細

(1) 現金預金 (単位：円)

| 内 訳            | 金 額       |
|----------------|-----------|
| 現金             | 26,233    |
| 当座預金    ゆうちょ銀行 | 2,149,468 |
| 普通預金    りそな銀行  | 3,153,867 |
| 普通預金    中央労働金庫 | 1,125,059 |
| 定期預金    中央労働金庫 | 2,000,000 |
| 合 計            | 8,454,627 |

(2) 前受金

| 内 訳       | 金 額       |
|-----------|-----------|
| 次年度個人会員会費 | 2,607,000 |
| 次年度団体会員会費 | 2,910,000 |
| 合 計       | 5,517,000 |

## 監 査 報 告

一般社団法人 CIEC（コンピュータ利用教育学会）

監事 菅谷 克行



監事 中村 泰之



監事 一瀬 欽也



第 13 期事業年度（2025 年 7 月 1 日～2026 年 6 月 30 日）の事業報告、計算書類及び附属明細書、その他理事の職務の執行の監査について、次のとおり報告します。

### 1. 監査の方法及びその内容

定款及び監事が定めた監査方針に基づき、各監事は調査を行い、監査を実施しました。具体的には、理事会に出席し、会計帳簿、会計書類、理事会議事録等を閲覧し、当法人の理事等から、職務の執行状況等について報告を受け、また随時説明を求めました。

### 2. 監査の結果

- 1) 事業報告は、法令及び定款に従い当法人の状況を正しく表示しています。
- 2) 理事の職務の執行に関し、不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。
- 3) 計算書類とその附属明細書は、当法人の財産及び損益の状況を全ての重要な点において適正に表示しています。

### 3. 追記情報

ありません。

以 上

第3号議案：2025年度収支差額処分承認の件

2025年度利益金処分案

|             |                    |
|-------------|--------------------|
| I 当期末処分利益金  | <u>2,885,601 円</u> |
| II 次年度繰越利益金 | <u>2,885,601 円</u> |

上記のとおり、2025年度利益金は次年度へ繰り越すことを提案いたします。

一般社団法人 C I E C（コンピュータ利用教育学会）

会長理事 飯吉 透

## 第4号議案：2026年度予算承認の件

### 2026年度予算計画

#### I. [経常収益について] 1,702 万円

##### 1. 会費収益 総額 1,169 万円

- ・ 個人会員会費収入は 462 万円の計画とし、PC カンファレンス会場での新規加入増を見込んでいます。
- ・ 団体会員会費収入は PC カンファレンスでの「教育・IT フェア」「教育・IT フェアインデキシング」の企画で新規加入の機会増を図ること、現在の団体会員への加入口数の増などの要請を通じて 707 万円の計画としています。

(文中の金額は原則として 1 万円未満切り捨て)

##### 2. 財務収益

- ・ 受取利息で 5 千円を計上します。

#### II. [経常費用について] 1,173 万円

##### 1. 事業費用 総額 785 万円

###### 1) 会議費用 70 万円

- ・ オンラインでの会議開催を前提にし、対面会議は必要な場合のみ実施します。
- ・ 総会費用は、電子投票システムの値上(5 万円→13 万円)げもあり、15 万円を計上します。
- ・ 理事会は、年 4 回はオンライン開催を前提とし、5 万円を計上します。
- ・ 会議の開催はオンライン会議を前提とし、広報・ウェブ委員会は、5 万円を計上します。引き続き各委員会、部会、支部の WEB 担当者の会議参加を呼びかけます。
- ・ 研究委員会は 20 万円を計上します。
- ・ 国際活動委員会は 5 万円を計上します。
- ・ 会誌編集委員会は 10 月、3 月開催の 2 回分 10 万円を計上します。
- ・ Zoom アカウント購入費用として 10 万円計上します。

###### 2) 会誌発行費用 400 万円

- ・ 12 月の 61 号、6 月の 62 号発行費用全体で 400 万円を計上します。(取材・送料込)
- ・ 会誌発行費用には J-STAGE への投稿デジタルデータ作成費用 5 万円、オンライン投稿システム費用として 30 万円が含まれます。
- ・ オンライン投稿システム費用の内訳は年間サポート(130,000 円)と利用料(@4,000 円×40 本程度)です。

###### 3) 広報費用 10 万円

- ・ HP 構築運用費として 10 万円を計上します。

###### 4) 研究会費用 50 万円

- ・ 研究会費用は 1 回上限 15 万円です。
- ・ 春季カンファレンスの会場費、論文賞賞金、JSTAGE への投稿デジタルデータ作成費用等を計上しています。

###### 5) 調査費用 0 万円

- ・ 2026 年度は調査を行いません。

###### 6) 事業活動費用 25 万円

- ・ 春季カンファレンスの三役メンバーの参加費として 15 万円計上します
- ・ 事業委託費(電子証明書費用)は 10 万円を計上します。

###### 7) 支部活動援助金 65 万円

- ・支部活動を保障する予算を 65 万円計上します。北海道支部 29 万円、九州支部 36 万円です。支部では地域を単位とした事業（地域 PCC、研究会など）を展開し CIEC 会員の参加の「場」を広げます。
- 8) 部会活動援助金 112 万円
  - ・部会規約に基づき、定めた基準を満たす部会への援助金を 112 万円計上します。小中高部会 60 万円、生協職員部会 12 万円、数理・データサイエンス・AI 教育研究部会 10 万円とします。なお、CIECers は今期から予算計を行い 30 万円(※30 周年記念企画のため)とします。
- 9) 学会表彰事業費用 3 万円
- 10) 教育出版費用 0 万円
  - ・以前抜き刷り費用を別に計上しておりましたが現在は受取金額と相殺のため計上しません。
- 11) 周年事業費用 50 万円
  - ・30 周年記念事業の費用として 50 万円を計上します。
- 12) PCC 支援金 0 万円
  - ・今期は計上いたしません。
- 2. 管理費用 総額 388 万円
  - 1) ネットワーク運営費 5 万円
    - ・サーバ更新料、ドメイン更新費
  - 2) 事務局通信費 25 万円
  - 3) 事務局業務委託費 300 万円
    - ・全国大学生協連への支払いです。
  - 4) 事務用品費 15 万円
  - 5) 備品購入費 10 万円
  - 6) 管理委託費 2 万円
    - ・システム運用費用として 2 万円を計上します。
  - 7) 雑費 30 万円
    - ・振込、自動引き落とし、各種発行手数料などの費用として計上します。
  - 8) 予備費 1 万円
  - 9) 租税公課 2 千円

以上

# 一般社団法人CIEC2026年度予算案

(単位：円)

| 科 目            | 金 額        |            |
|----------------|------------|------------|
| (経常損益の部)       |            |            |
| I 経常収益         |            |            |
| 1 会費収益         |            |            |
| 1) 個人会員会費収入    | 4,627,000  |            |
| 2) 団体会員会費収入    | 7,070,000  |            |
|                | 11,697,000 |            |
| 2 財務収益         |            |            |
| 1) 受取利息        | 5,000      |            |
|                | 5,000      | 11,702,000 |
| II 経常費用        |            |            |
| 1 事業費用         |            |            |
| 1) 会議費用        | 700,000    |            |
| 2) 会誌発行費用      | 4,000,000  |            |
| 3) 広報費用        | 100,000    |            |
| 4) 研究会費用       | 500,000    |            |
| 5) 調査費用        | 0          |            |
| 6) 事業活動費用      | 250,000    |            |
| 7) 支部活動援助金     | 650,000    |            |
| 8) 部会活動援助金     | 1,120,000  |            |
| 9) 学会表彰事業費用    | 30,000     |            |
| 10) 教育出版費用     | 0          |            |
| 11) 周年事業費用     | 500,000    |            |
| 12) PCC支援金     | 0          |            |
| 13) 中期活動計画調査費用 | 0          |            |
|                | 7,850,000  |            |
| 2 管理費用         |            |            |
| 1) ネットワーク運営費   | 50,000     |            |
| 2) 事務局通信費      | 250,000    |            |
| 3) 事務局業務委託費    | 3,000,000  |            |
| 4) 事務用品費       | 150,000    |            |
| 5) 備品購入費       | 100,000    |            |
| 6) 管理委託費       | 20,000     |            |
| 7) 雑費          | 300,000    |            |
| 8) 予備費         | 10,000     |            |
| 9) 租税公課        | 2,000      |            |
| 10) 外部委託費      | 0          |            |
|                | 3,882,000  | 11,732,000 |
| 3 財務費用         | 0          |            |
| 1) 支払利息        | 0          |            |
| 経常損失金          |            | 30,000     |

## 第 5 号議案：CIEC 役員選挙実施の件

CIEC 役員選挙規約に基づき 2026 年度・2027 年度（2026 年度社員総会から 2028 年度社員総会まで）の役員選挙を実施しました。結果を選挙管理委員会から報告します。

個人会員の理事

団体会員の理事

監事

## 資料 1：専門委員会、部会、支部 2025 年度活動報告と 2026 年度活動方針

※敬称略にて作成しています。

### 会誌編集委員会

#### 1. 2025 年度活動報告

- (1) 会誌「コンピュータ&エデュケーション」59 号（2025.12.1）を発行しました。

- ・ INTERVIEW 「つくることで学ぶ」

阿部和広さん（青山学院大学特任教授/青学つくまなラボ シニアフェロー）に聞く／寺尾敦編集委員長

- ・ 特集「ICT でひろがる新しい探求学習のとりくみ」：4 本／特集担当：篠田有史編集委員
- ・ 2025PC カンファレンス報告「教育・学習における常識の革命」
- ・ 研究論文 6 本／実践論文 3 本／実践報告 1 本／ソフトウェアレビュー 1 本

※特集を除く一般投稿は 22 本で採択されたものは 11 本、採択率は 50%でした。

- (2) 会誌「コンピュータ&エデュケーション」60 号（2026.6.1）を発行しました。

- ・ INTERVIEW 「AI と仲間と学び合う」

梅野哲さん・吉田一貴さん（相模原市立中野中学校）に聞く／寺尾敦編集委員長

- ・ 特集「防災と安全教育で活用する ICT」  
4 本／特集担当：永井正洋編集委員
- ・ 研究論文 5 本／実践論文 9 本／研究ノート 1 本／実践報告 3 本
- ・ 国際活動委員会主催「2026 韓国教育視察」報告

※特集を除く一般投稿は 32 本で採択されたものは 18 本、採択率は 56%でした。

- (3) 会誌編集委員会を、以下の日程（会場）で開催しました。

第 95 回：2025 年 8 月 20 日（鹿児島大学郡元キャンパスおよび WEB 会議システムによるハイブリッド会議）

第 96 回：2025 年 11 月 16 日（WEB 会議システムによる遠隔会議）

第 97 回：2025 年 4 月 5 日（WEB 会議システムによる遠隔会議）

- (4) 2025PC カンファレンスで、セミナー「論文執筆における生成 AI の利用—基本原則を定めるための議論—」を開催しました。趣旨説明：寺尾敦（青山学院大学） パネリスト：寺尾敦（青山学院大学）・吉田賢史（早稲田大学高等学院）

- (5) 会誌 49 号からオンライン投稿・査読システム Editorial Manager を導入し、継続して運用しています。

#### 2. 2026 年活動方針

- (1) 会誌『コンピュータ&エデュケーション』61 号および 62 号を刊行します。昨年度に引き続き『コンピュータ&エデュケーション』の内容をさらに充実させることを目指します。「本の紹介」については、従来と同様に理事会メンバーの積極的な投稿をお願いします。

- (2) 本格運用を開始したオンライン投稿・査読システム Editorial Manager（会誌第 49 号より導入）について、適宜検証を行い、必要に応じてシステムの改善を図ります。

- (3) 会誌編集委員会を年 3 回程度開催する予定です。

- (4) より質の高い論文等の投稿が増えるよう、2026PC カンファレンスにてセミナーを開催します。タイトル「論文執筆における生成 AI の利用—ガイドラインの提案—」

- (5) 『コンピュータ&エデュケーション』への投稿論文執筆における、生成 AI 利用のガイドラインを策定します。

- (6) 巻頭インタビューについては、これまでと同様に CIEC 団体会員をはじめ、団体会員外企業等にも積極的にインタビューを依頼し、CIEC への理解を深めることを目指します。会誌の特集に関連するテーマ・トピックも考慮しながら、各種ソフトウェア・システム等を有効に活用している実績のある個人についても、インタビューの対象としていきます。
- (7) 学会賞選考委員会に会誌編集委員会として協力します。

## 広報・ウェブ委員会

### 1. 2025 年度活動報告

広報・ウェブ委員会は、CIEC の広報全般、特にウェブサイトの運営等に取り組み、会員への情報提供、社会への発信等を強めることを目的に活動しています。2025 年度は、例年と同じく CIEC 公式サイトおよび SNS ツールの運用や、2026PCC 公式サイトの 4 月の公開と運用を続けています。Web サイトについては各委員会等による自主的な運営ができる体制が軌道に乗ってきているが、それぞれの CMS（コンテンツ管理システム）上の権限では更新できない範囲、過去とは違った作業が必要となる場合には広報・Web 委員会として対応を行いました。

### 2. 2026 年度活動方針

2026 年度は以下のような方針を念頭に活動を行います。

- (1) CIEC 公式サイトや SNS を用いた積極的な情報発信
- (2) 広報 Web 委員会としての組織的（チーム的）運営体制の構築
- (3) ラジオコンテンツの試行と発信

まず項目 (1) について。

2025 年の活動報告にも記載の通り、各委員会による発信は軌道に乗っていると考えます。他方、SNS についてはイベント毎に発信を行なっているが、現状会員の SNS での発信状況もプラットフォームとしてバラツキがあり効果としての面では課題があります。他方、現状抜本的な解決策なども考えにくいいため、項目 (3) など合わせて SNS（YouTube 等）上での発信も行なっていきます。

次に、項目 (2) について。

上記項目 (1) とも関係しますが、広報 Web 委員会の業務はアカウントの管理（ID やパスワード）と不可分の所があり、その秘匿性の観点から属人的になりやすい側面があります。他方、今後の運営を考えた場合、どう組織的に運営していくのかを考えることは継続性の観点から重要だと考えます。前年度と同様ではあるが特定の個人に頼る構造は少しでも改善するように対応を行なっていきます。

項目 (3) について。

項目 (1) とも関連するが、情報発信を考える上で発信するコンテンツ自体を作成していくことが必要になると考えます。そこで、昨今再度注目を集めつつある音声コンテンツ（ラジオコンテンツ）に着目し、CIEC に関連する情報を発信していくことを行いたい。具体的には、会員の活動内容をラジオ的な形で収録し、PodCast などの形式で配信することを行なっていきたい。年度内に試行を行いつつ、配信を行う体制を構築します。

## 国際活動委員会

### 1. 2025 年度活動報告

2025 年度国際活動委員会では、CIEC 会員が海外の教育関連情報を収集できるよう支援する取組の一環として、サイバー大学および AI プラットフォームに焦点を当てた韓国視察を企画・実施した。

2025 年 11 月に企画の概要をホームページで公開し、CIEC 全会員に参加を募った。韓国視察には 11 名の参加者があり、以下の日程で実施した。（詳細は報告書[会誌 2026 年 6 月号]に掲載）

- ・ 2026 年 3 月 17 日 高麗サイバー大学訪問・視察・日韓交流会

日韓のサイバー大学の現状（少子化対応・制度・教育内容等）について意見交換を行った。

大規模な動画教材制作スタジオを見学し、高度なオンライン教育を支える体制を確認した。

- ・ 2026 年 3 月 18 日 株式会社ビサン教育訪問

AI 搭載 EdTech プラットフォーム「AllviA」の説明とデモを通して、教育の高度化と学習環境の変革について理解を深めた。

海外展開を含む教育 DX の取組や、日本における活用の可能性について質疑応答を行った。

### 2. 2026 年度活動方針

CIEC 会員が海外の教育関連情報を収集できるよう支援し、そのための環境整備と企画立案を行う。具体的には、下記のような活動を進め、研究会、PCC、海外視察等の具体的事業につなげていく。

- ・ 韓国の教育実践：2025 年度韓国視察の成果を共有するための研究会を企画する。
- ・ 米国の ICT 環境と教育：2023 年 6 月 25 日に行われた研究会の講師である米国 UCOM 社 Faustino Hernandez 氏との関係を継続し、発展的な研究会や相互訪問の機会を探る。
- ・ 英国の教育実践：2024 年 6 月 9 日に行われた Cantree の主任ディレクター Patrick Carmichael 氏との関係を継続する。
- ・ 諸外国の教育状況調査：諸外国との連携強化を模索し、共同研究・共同調査の推進につなげる。

## 研究委員会

### 1. 2025 年度活動報告

研究委員会は、会員相互の研鑽と交流の機会創出を目的とした研究会の企画・運営を行っています。また、本委員会が主催する春季カンファレンスを定期的に開催しており、会員が研究発表・議論を行う機会を広く提供しています。2025 年度は当初の活動方針に従って、以下の活動をしました。

- (1) 「CIEC 春季カンファレンス 2026」を開催し、「CIEC 春季カンファレンス論文集 Vol. 17」（電子版）を刊行しました。U-18 は、対面・オンラインの発表で開催しました。

#### ● 開催概要と論文数

日程：2026 年 3 月 26 日（木）

会場：東京理科大学 森戸記念館

発表件数：

- ・ 一般論文（査読付）発表：12 件（論文 3、速報論文 6 件、資料 3 件）※応募 13 件 採択 12 件 採択率 92%

・ショートペーパー（査読なし）発表：4 件

・U-18 論文発表（概要審査）：15 件

参加者：一般・研究会委員・事務局・U-18 合計 101 名

参加者の推移

| 2017 年 | 2018 年 | 2019 年 | 2021 年 | 2022 年 | 2023 年 | 2024 年 | 2025 年 | 2026 年 |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 31 人   | 38 人   | 46 人   | 99 人   | 62 人   | 50 人   | 61 人   | 47 人   | 101 人  |

## ● 表彰

査読付論文を対象とした論文賞 0 件、U-18 発表論文を対象とした U-18 最優秀賞 1 件、U-18 優秀賞 1 件、U-18 発表賞 3 件、U-18 奨励賞 9 件が表彰となりました。当日は、発表者・参加者の皆さまのご協力のもと、活発な質疑応答や議論が交わされ、大きなトラブルも無くスムーズにプログラムを進行できました。CIEC 春季カンファレンス 2026 に関わってくださったすべての皆さまに感謝申し上げます。

表彰：

■最優秀論文賞「プラスチックスプーンの形状の改善」富山県立高岡高等学校 西坂蒼純・金田崇志・奥亮徳・中西光琉

■優秀論文賞「GPS および気圧情報を用いた屋内位置把握システムの開発 - 校内における実証結果から -」聖徳学園高等学校 武内龍義

■優秀論文賞「物理エンジン統合による動画生成 AI の物理的整合性の向上」東洋大学附属牛久高等学校 田中伶旺

■発表賞「超指向性スピーカーを用いた音の広がりの変化」西大和学園高等学校 鈴木理紗・鈴木理代・福田優惺

■発表賞「電車の揺れへの耐え方」富山県立高岡高等学校 松木奏和・高橋颯音汰・林和香・大西ひな

■発表賞「リフレミングの類型化とアプリ化への応用提案」聖徳学園中学・高等学校 村上愛幸

□奨励賞「手書き文字の読みやすさ評価システムの開発」兵庫県立小野高等学校 山本景翔・井上壮典・小林柁貴

□奨励賞「SIR モデルを用いた地域における感染予測への活用」北海道函館中部高等学校 三國茉日向・藤戸容・細田輝貴

□奨励賞「飲酒量の自己認識を促す多感覚フィードバック装置の開発」聖徳学園高等学校 小町彩寧

□奨励賞「若者の自己肯定感向上に向けたアルゼンチンタンゴの効果」聖徳学園高等学校 山崎小夏

□奨励賞「多角的視点」を養うカードゲーム設計 - 1 つのことを様々な視点から考える力の育成のために -」聖徳学園高等学校 熊本悠旺

□奨励賞「地域限定商品が訪問・購買行動に与える影響に関する探究」聖徳学園高等学校 佐藤七海

□奨励賞「夏の弁当における効率的な温度管理」富山県立高岡高等学校 神島壮史・久保大河・堀田奏弥

□奨励賞「3D キャラクタ制作における Blender 初心者への成長過程」東洋大学附属牛久高等学校 添田苺央

□奨励賞「SNS における承認格差と自己承認の喪失 - 記念日化 SNS による承認デザインの再構築 -」聖徳学園高等学校 北川達大

## ● 査読のプロセスの改善

学会の新しい著作権規定を採用され 2 年目、5 ページの査読者向けの「一般論文査読の方針（一部改定）」を活用し、大きな問題はありませんでした、引き続き検討をします。

## ● スラックのコミュニケーション中心に変更し 2 年目です。無料版なので古い書き込みが読めなくなるので困るが、それ以上にコミュニケーションが進展し、ML より遥かにメリットが大きい。

## ● U-18 参加者向けにアンケートを実施

アンケートの回答者が「参加して良かった」、「論文執筆能力が学生に得た」と感じているが、回答数が少

なく、当日に紙または QR コードによるアンケートの方が後日の回答より、回答率が上がると思われる。

- 研究委員会の開催

|                 |                      |
|-----------------|----------------------|
| 2025 年 9 月 28 日 | ZOOM による遠隔会議（募集要項等）  |
| 2025 年 12 月 6 日 | ZOOM による遠隔会議（編集会議）   |
| 2026 年 1 月 19 日 | ZOOM による遠隔会議（論文査読経過） |
| 2026 年 2 月 20 日 | ZOOM による遠隔会議（論文査読結果） |

- CIEC 春季カンファレンス 2026 論文集の J-STAGE への登録

現在、登録作業中

## 2. 2026 年度活動方針

- (1) 春季カンファレンスについて、以下の点を検討します。
  - ・ 参加者増に向けて、開催方法などについて、検討します。
  - ・ 査読ありの一般論文の投稿規定や査読体制を明瞭化に向けて、より検討を進めます。
  - ・ 参加者増に向けて、他の委員会や部会との連携も視野にいれ開催方法を検討します。
- (2) 春季カンファレンスの他、CIEC で開催される各種研究会や研究交流会の企画・運営案などを確認・承認し、広報・ウェブ委員会と連携しながらより一層の周知拡大を目指します。
- (3) 春季カンファレンスと夏の PC カンファレンスや、会誌、U-18 発表など共通する事柄など、すり合わせ共通可能な部分は、さらに歩調を合わせていきたいと考えています。

### 小中高部会

#### 1. 2025 年度活動報告

- (1) 2025PC カンファレンス（鹿児島大学）の運営協力

- ・ 分科会発表：U-18 部門にかかる発表支援、運営、審査協力
- ・ セミナー 8 月 23 日（土）14:15～15:55（編集委員会との共催）

セミナーテーマ：入門：初等中等教育段階におけるデータサイエンス教育

登壇者

白石 利夫（聖徳学園中学・高等学校）

坂庭 康仁（札幌旭丘高等学校）

青山 和裕（愛知教育大学）

ファシリテーター

大橋 真也（順天堂大学）

- (2) CIEC サタデーカフェの開催及び運営

第 41 回：2025 年 7 月 26 日（土） 20:00 - 21:00

テーマ：生成 AI 登場で問い直すべきこと

話題提供者：鈴木 秀樹 氏（東京学芸大学附属小金井小学校教諭）

第 42 回：2025 年 9 月 27 日（土） 20:00 - 21:00

テーマ：『SCIENCE Palette』とデータサイエンス初めの一歩

話題提供者：佐々木 東 氏（NPO 法人 NEXTDAY 理事）

第 43 回：2025 年 10 月 18 日（土） 20:00 - 21:00

テーマ：情報科の授業における「つくる・遊ぶ・表現する」STEAM 教育の実践

話題提供者：木村 剛隆 氏(聖徳学園中学・高等学校情報科)

第 44 回：2025 年 11 月 29 日(土) 20：00 - 21：00

テーマ：様々なツールをつなぐプラットフォームとしての LMS の利用について

話題提供者：土屋 顕一朗 氏、山嶋 春香 氏(株式会社朝日ネット manaba 営業部)

第 45 回：2026 年 1 月 24 日(土) 20：00 - 21：00

テーマ：わかる!できる!を増やすために～子どもたちの手を止めない AI チューター「Knock」の学校内活用事例とコンセプト～

話題提供者：村田 洋佑 氏、富田 浩章 氏(Hanji 株式会社)

第 46 回：2026 年 2 月 21 日(土) 20：00 - 21：00

テーマ：大学生協の学生向け ICT 調査・学生生活実態調査からみる学びの変化

話題提供者：松浦 順三 氏(全国大学生生活協同組合連合会)

### (3) その他

- ・CIEC 春季カンファレンス 2025 小中高生参加協力

## 2. 2026 年度活動方針

- ・大学入試共通テストへの「情報Ⅰ」の導入について～「情報Ⅰ」のあり方と「情報Ⅱ」の実施について考える～

高等学校では 2022 年度から共通教科「情報」の科目が「情報Ⅰ」と「情報Ⅱ」に再編され、2025 年度入試より大学入試共通テストにおいて「情報Ⅰ」が導入された。高等学校の現場ではすでにこれを意識した「情報Ⅰ」の教育がなされている。「情報Ⅰ」の教育の今後のあり方や「情報Ⅱ」の実施について考察し、理解を深めていきたい。

- ・小中高におけるデータサイエンス教育について

現在、小中高校では社会の変化を受けて、統計教育やデータサイエンス教育領域が注目を浴び、新指導要領でも大きく取り扱われている。データサイエンスを扱う学科の設置や総合的な探究の時間でのデータサイエンス教育の取り扱いなどの変化が起こりつつある。しかし、実際にデータの収集から行い、分析、対策、評価という一連のプロセスにおいて、それらを指導することに戸惑いを持つ現場の教員の声も多く出ている。様々な現状を踏まえ、現場での統計教育及びデータサイエンス教育の今後のあり方や高大連携を見据えた取り組みについて、議論していきたい。

- ・生成 AI(人工知能)の教育的利用について

ChatGPT の流行に代表されるように、生成 AI(人工知能)はすでに我々の生活空間に共存していると言っても過言ではない状態になっている。教育の現場では、生成 AI を利用して学習者の「学び」を深めることが期待されている一方で、社会でも生成 AI をどのように利用すべきかが課題となっている。本部会では、生成 AI と教育の関わりについて様々な観点から整理し、今後の課題について議論を進めていきたい。

### 具体的な活動

- (1) 研究会の実施（基本的には対面で行うことを視野に入りたいがオンラインの可能性もあり。）

- ・大学入試共通テストへ「情報Ⅰ」の実施について
- ・小中高におけるデータサイエンス教育について
- ・生成 AI(人工知能)の教育的利用について

- (2) 2026PC カンファレンス（東洋大学）への協力
- (3) CIEC サタデーカフェの運営
- (4) 北海道地区において、PC カンファレンス北海道などに参加・協力・学習会の実施
- (5) 世話人会の実施（年 3 回、北海道・関東・関西等で開催予定）
- (6) 国際活動委員会との連携
- (7) MDASH(数理・生成 AI・データサイエンス)部会との連携
- (8) 研究委員会との連携
- (9) 生協職員部会との連携
- (10) プロジェクトへの協力

## 生協職員部会

### 1. 2025 年度活動報告

#### (1) 研究会/企画

8 月 PC カンファレンスにてセミナー実施 「学生の学びと ICT 活用を考える」

<パネリスト>

加田 愛貴（名古屋大学 修士課程 2 年）

前 風人（山形大学 学部 4 年）

近藤 果音（山形大学 学部 2 年）

遠藤 理紗（山形大学生協）

藤田 和音（徳島大学 学部 3 年）

平井 和真（徳島大学生協）

モデレーター 木村 修平（立命館大学）

司会 松葉 哲史（生協職員部会・早稲田大学生協）

本セミナーは、大学生の学びにおける ICT の使い方と、生協が提供する PC 有料講座などの内容がいまの学生の実情に合っているかを、当事者の声をもとに確かめたものである。前半の報告を受け、後半はモデレーターと登壇者による意見交換を中心に進行した。

本セミナーは、学生の「いま必要な学び」を起点に講座内容を見直す契機となった。今後は、提案した講座を試行し、参加者の声と成果をもとに改善を重ねていく予定である。セミナーは多くの意見が交わされ、盛況のうちに終了した。

#### (2) 世話人会（主に関東地区職員や、PCC 登壇者の生協職員学生にて実施）

2025/3/28 2025PC カンファレンスセミナー打合せ（オンライン）

参加者：石原・吉村・平塚・中森・有馬・松葉（生協職員部会）＋松浦・立川（生協連合会）

2025/6/24 2025PC カンファレンスセミナー打合せ（オンライン）

参加者：森・有馬・中森・松葉（生協職員部会）＋佐藤・立川（生協連合会）

2025/8/5 2025PC カンファレンスセミナー打合せ（オンライン）

参加者：松葉（生協職員部会）＋松浦・立川（生協連合会）＋登壇者 4 名

2025/8/22 PCC 当日打合せ/セミナー運営（鹿児島大学）

松葉（生協職員部会）＋松浦・立川・佐藤（生協連合会）＋登壇者 7 名

## 2. 2026 年度活動方針

- (1) 2026 年 PC カンファレンスにて開催予定のセミナー「学びに関わるみんなで、大学の今を考える」にて多くの立場より大学生協の教育を考え直す機会を構築する
- (2) 大学生協の立場として、大学・小中高をはじめとする現場の ICT 教育についてできること、貢献するべき部分を C I E C の関わりの中で検討・調査・実践する
- (3) 引き続き生協職員の C I E C 会員の増加並びに P C カンファレンスの参加者増加につとめる。

### 数理・データサイエンス・AI 教育研究部会

#### 1. 2025 年度活動報告

- (1) 2025PC カンファレンス セミナー「データ系コンペ参画を通じた AI・データサイエンス正課外教育の拡充」  
2025 年 8 月 23 日（土）12:20-14:00 に、2025PC カンファレンス（鹿児島大学郡元キャンパス）にてセミナー（セッション）を開催
- (2) 2025 年度セミナー——「生成 AI 時代におけるレポート・論文作成支援」を開催  
2026 年 3 月 15 日（日）13:00-14:30 に、大学生協杉並会館（B1F、会議室 102）およびオンライン併用のハイブリッド形式でセミナーを開催
- (3) 世話人会（オンライン）の開催  
随時、世話人会をオンライン（メール審議、報告）で開催。

#### 2. 2026 年度活動方針

- ・大学における数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度の実施状況について  
文部科学省の「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」に関して、多くの大学で全学教育として数理・データサイエンス・AI 教育が導入されつつある。その導入方法や内容は多種多様であり、これらの情報共有は有意義である。本研究部会では実施状況を検証しつつ、各大学での導入事例等の情報共有を行う。
- ・新課程における数理・データサイエンス・AI 教育の展開  
初等中等教育における学習指導要領の改訂により、新課程に対応した入学試験が 2025 年度入試より導入されている。共通テストにおける数学・情報の問題作成の方向性や出題問題等を踏まえ、各学校での対応状況や大学における新たな入試形態への対応について情報共有を行う。また小学校・中学校での全国学力・学習状況調査におけるデータの分析に係る出題問題等に触れ、小中高との体系的な学びについても議論する。
- ・生成 AI を活用した数理・データサイエンス・AI 教育の構築  
昨今、急速に普及しつつある生成 AI を用いた数理・データサイエンス・AI 教育分野への適用について、その実態を把握しながら、今後の活用についても議論する。合わせて、生成 AI の利活用に関する注意事項や課題についても議論を行う。

#### 具体的な活動

- (1) 2026 PC カンファレンス（東洋大学赤羽台キャンパス）でセミナーの実施
- (2) 研究部会セミナーの開催（冬季）
- (3) 世話人会の実施（随時）
- (4) 関連学会・研究会と連携した情報共有
- (5) ウェブサイトでの情報発信

## 教育実践イノベーション研究部会

### 1. 2025 年度活動報告

2025 年度は、PC カンファレンス 2025 のイブニング・セッションを企画・実施しました。セッション実施概要（Computer & Education, VOL. 59, 2025 に掲載されたセッション報告を一部修正して引用）は、以下の通りです。本イブニングセッション「日常的な教育実践の可視化と共有から始める『教育・学習における常識の革命』（交流型）では、PCC2025 のテーマである「教育・学習における常識の革命」を踏まえ、約 40 名の参加者と共に教育・学習経験や知見・アイデアをベースに情報・意見共有やディスカッションをおこなった。

まず矢野氏より、「メディアの発達による教材の常識の変遷」や「生成 AI によってアプリ開発を自動化する Vibecoding」に関する話題提供とデモをおこなった。

続いて、木村氏が Mentimeter を用いて「最近身のまわりで起きた教育・学習に関する革命的な出来事は？」「今後起るとしてほしいと思う教育・学習に関する革命的な出来事は？」という 2 つの問いに対する参加者からの応答をリアルタイムでスクリーン上で共有し、基調講演とシンポジウムの登壇者全員からコメントやアドバイスを得た。さらに香西氏が、「生成 AI を活用した教育実践知の『見える化』支援」と題し、開発中のシステム PCK-AI についての報告をおこない、参加者によるシラバスや授業案を用いた同システムの活用体験が試みられた。最後に飯吉氏が、「教育実コミュニティとしての CIEC が、様々なテクノロジーを活用した新たな学び方や教え方を創発・進展させ、時に常識を覆すような教育イノベーションとして広く社会に貢献していくことが重要だ」と述べ、本セッションは締め括られた。

### 2. 2026 年度活動方針

本部会の活動目的・内容に鑑み、部会として PC カンファレンス 2026 のイブニング・セッションを企画・実施します。セッションの企画内容は、以下の通りです。

テーマ：

テクノロジーとヒューマンタッチの両立可能性から考える「人間主体の学習と教育」

概要：

本イブニングセッションでは、今年の PCC テーマである「AI 時代における人間主体の学習と教育」を踏まえ「テクノロジーとヒューマンタッチの両立可能性」という観点から、参加者の教育・学習経験や知見・アイデアをベースにディスカッションやアクティビティを行います。さらにシンポジウム登壇者からのフィードバックを交えつつ、今後の教育実践・教育革新に役立つ考え方や指針を、生成 AI による支援も用いながら模索・整理・提案します。基調講演とシンポジウムを踏まえ、AI と共存する時代において「人間の理解・判断・創造といった認知活動をおこなうための知力や技能を AI 等のテクノロジーを活用していかに育むべきか」を、「人間主体」という観点から多角的に検討・探究する場にできれば幸いです。初等・中等教育から高等教育関係者まで、多くの皆様のご参加をお待ちしています。

上記セッションに加え、2026 年度内に、本学会 30 周年記念行事の一環として、コンピュータ利用教育の過去 30 年を振り返り、そこから得られた知見・経験を踏まえて、今後 30 年間のテクノロジーを用いた教育を展望する本部会主催によるシンポジウムの開催を予定しています。さらに、CIEC ウェブサイト・SNS 等を通じ、本部会メンバーや CIEC 会員（社員）による様々な実践や研究・開発から得られた成果や知見の発信・共有を行っていく予定です。

## CIEC WiN (Women in Network)

### 1. 2025 年度活動報告

#### (1) 設立目的・趣旨

CIEC WiN (Women in Network) は、女性研究者の課題を起点としつつ、多様な立場の研究者が参画する緩やかなネットワークとして、学びの継続を支える工夫の共有、ロールモデルの可視化、情報交換の場づくりを進めることを目的として設立された部会である。

その活動を通して、女性に限らず、すべての研究者が安心して学び続けられる学会環境づくりに寄与することを目指している。

#### (2) 設立準備および承認

- 2025 年 9 月 12 日

会長宛に「学びの継続支援と多様性推進に関する提案」を提出した。

- 2025 年 11 月 15 日

理事会にて承認され、CIEC 内に女性研究者コミュニティ CIEC WiN (Women in Network) を立ち上げた。あわせて、CIEC ニュースを通じて賛同者を募集した。

#### (3) 交流活動の実施

- 2026 年 2 月 22 日

第 1 回インサイトサロン（オンライン交流会）を開催した。

自己紹介、関心テーマの共有、今後扱いたい話題に関する意見交換等を行った。

#### (4) 部会設立

- 2026 年 3 月 15 日

理事会にて、部会 CIEC WiN (Women in Network) の設立が承認された。

#### (5) 発起人会の開催

- 2026 年 4 月 8 日

第 1 回発起人会を開催し、今後の活動方針等について協議した。

#### (6) 多様な参加促進に向けた取組

- 2026 年 5 月～6 月（予定）

CIEC における参加・発表に関する実態把握を目的として、会員アンケートを実施予定。多様な研究者が参加しやすい環境づくりに向けた基礎資料とする。

### 2. 2026 年度活動方針

#### (1) 交流・研究活動の推進

- インサイトサロンの継続開催

年 3～4 回程度を目安に開催し、参加者によるショートトークや意見交換を中心とした交流の場とする。

- PC カンファレンスへの参画

イブニングセッションへの参加を通じ、WiN の活動趣旨を広く発信する。

- CIEC30 周年記念事業への参画

30 周年の節目にふさわしい研究会等の開催を検討する。

#### (2) 多様な参加促進に向けた取組

CIEC における女性会員比率が約 2 割にとどまっている現状も踏まえ、多様な研究者が参加しやすい環境づくりに向け、以下の施策を検討する。

- ・ オンライン参加・発表機会の充実
- ・ 育児・介護等に配慮した支援策の検討
- ・ 家族参加型企画や次世代向け体験講座の検討
- ・ 対話を重視した参加しやすい雰囲気づくり
- ・ 会員ニーズを踏まえた継続的な改善

## 北海道支部

### 1. 2025 年度活動報告

#### (1) 「PC カンファレンス北海道 2025」の開催

2025 年度は、旭川工業高等専門学校を会場として「PC カンファレンス北海道 2025」を開催した。実行委員会は Slack による情報共有と Zoom によって開催し準備を進めた。対面による一日開催としたが、特別講演 1 件、分科会発表 15 件であった。分科会発表中 12 件が学生発表であった。例年と同様に学生プレゼンテーション賞を設定した。特別講演として、小山工業高等専門学校 鈴木真ノ介先生にご講演いただき、参加者との活発な質疑が行われた。40 名ほどの参加者数となった。本カンファレンスにおいては、日頃の ICT を活用した教育活動、教育の情報化の実情や課題など、幅広い内容の実践論文、萌芽論文、研究速報などが寄せられた。コンピュータを利用した教育活動を横断的な視点でとらえて、継続的に情報交換や議論を行える場となることが期待された。

#### PC カンファレンス北海道 2025

テ ー マ 「アクティブラーニングでつながる・ひろがる・深まる学び」

日 時 2025 年 11 月 22 日（土）11 時 30 分～17 時 00 分

会 場 旭川工業高等専門学校（旭川市春光台 2 条 2 丁目 1-6）

主 催 PC カンファレンス北海道 2025 実行委員会

共 催 CIEC（コンピュータ利用教育学会）全国大学生協同組合連合会北海道ブロック

特別講演 「＜比較的＞手軽に使える ICT 技術による教育」

講 師 鈴木真ノ介先生（小山工業高等専門学校教授）

協 賛 日本データパシフィック株式会社、株式会社富士通パーソナルズ、noa 出版、  
富士電機 IT ソリューション株式会社

後 援 旭川市教育委員会、鷹栖町教育委員会

学生プレゼンテーション賞受賞者：同志社大学大学院文化情報学部 横石一輝さん

「生成 AI を活用したアクティブラーニングにおけるプロンプト変容の分析」

(2) 支部研究会の開催を予定していたが、開催には至らなかった。

### 2. 2026 年度活動方針

#### (1) PC カンファレンス北海道 2026 の開催

2026 年度は PC カンファレンス北海道 2026 の開催を予定している。開催地は札幌市、会場を北海道大学として、調整を開始している。これに伴い、PC カンファレンス北海道 2026 実行委員会を発足し開催に向けた活動を行っていく。

会 場：北海道大学（予定 情報基盤センター 札幌市中央区北 11 条西 5 丁目）

テーマ、開催期日等未定であるが、11 月下旬開催予定として調整中である。

#### (2) 北海道支部研究会の開催

時期、会場は未定であるが研究会の開催を予定している。

## 九州支部

### 1. 2025 年度活動報告

2025 年度は、全国版 PC カンファレンスが鹿児島大学教育学部において、8 月 21 日（木）～23 日（土）に開

催された。鹿児島大学での全国版 PCC 開催は 2003 年以来となり、九州支部にとっても大きな節目となる機会であった。九州支部では、九州の大学で開催される全国版 PCC は九州 PCC を兼ねるものとして位置づけており、本年度は「九州全体で盛り上げよう」という意識のもとで取り組みが進められた。その一環として、カンファレンス開催前日には、九州地区の生協職員（書籍担当・情報機器担当）による合同会議を開催し、PCC への参加動員を図った。その結果、九州内からは生協職員約 35 名、学生（学生委員会等）約 45 名が参加し、地域全体で大会を支える機運が醸成された。

現地運営においては、大学教職員および生協職員約 15 名に加え、大学生アルバイト約 25 名が実行委員として活動し、大会の円滑な運営を支えた。特に U-18 分科会に関しては、高校生の参加を促進するため、鹿児島県内の高校 5 校を訪問し参加を呼びかけた結果、4 校から口頭発表の参加を得ることができた。当日は U-18 高校生 17 名、高校教員 5 名が参加し、高大接続および地域連携の観点からも意義ある取り組みとなった。

また、PCC は大学生協に支えられている側面が大きく、本年度のレセプション（約 300 名規模）においても、その協働の力が発揮された。300 名規模の運営を確実なものとするため、通常の準備にとどまらず、実際の進行を想定したレセプションのリハーサルをあえて実施し、動線や役割分担を細部まで確認したうえで本番に臨んだ。当日は鹿児島の生協職員に加え、九州各地の食堂運営に関わる生協職員 5 名が応援に駆けつけ、運営を支援した。九州地区の大学生協は日頃から結びつきが強く、相互に協力し合う関係が築かれており、こうしたネットワークが本大会の円滑な運営を支える大きな力となった。提供された食事には鹿児島の名物に加え、九州各地の特色ある料理が取り入れられ、参加者に地域の魅力を発信する場ともなった。

これらの取り組みを通じて、開催校のみならず九州全体で大会を支える体制とその意義が共有され、他地域からも高い評価が寄せられた。鹿児島という地域での開催は、地域社会とのつながりや教育の多様性を再認識する契機ともなり、九州支部におけるネットワークの強化と今後の活動の発展に資する機会となった。PCC が大学生協および会員にとっての「CIEC 的活性化」の場であることが、あらためて確認された。

## 2. 2026 年度活動方針

九州支部では、PC カンファレンスを ICT 教育や情報化社会について学ぶ場としてだけでなく、語学教育、協同組合活動、平和、地域の学校教育など、多様な領域にわたる実践と交流の場として位置づけている。2026 年度は、西南学院大学において九州 PC カンファレンスの開催を予定している。同大学は、キリスト教主義に基づく教育理念のもと、地域社会との連携や国際交流に積極的に取り組んできた実績があり、本カンファレンスにおいても、教育・研究・地域を結ぶ多様な実践報告と議論が展開されることが期待される。これを契機として、九州支部会員を中心に、大学内外および地域社会との連携を一層強化する機会とする。

情報生活サポート研究会においては、ICT を活用した学生の学びと生活の支援をテーマとし、教員、生協職員、学生の協同のもとで、大学生協の果たす役割をさらに発展させる活動を推進する。また、生成 AI の活用やデジタル環境の変化を踏まえた新たな学習支援のあり方についても検討を進める。

その他の支部活動についても、九州 PC カンファレンスをはじめとする会員間の交流機会を活かし、研究・実践の共有とネットワーク形成を継続的に図るとともに、新たな研究テーマや地域連携の可能性を模索していく。

## 資料 2 : CIEC 活動報告

2025 年 7 月

- 1 日 (火) 2025 年度一般社団法人 CIEC 定時社員総会 開催公示  
22 日 (火) 2024 年度監事会 (大学生協杉並会館)  
26 日 (土) 小中高部会「第 41 回サタデーカフェ」(オンライン)

2025 年 8 月

- 5 日 (火) 生協職員部会 2025PC カンファレンスセミナー打合せ (オンライン)  
20 日 (水) 2024 年度第 5 回理事会 (鹿児島大学・オンライン)  
2025PC カンファレンス第 6 回実行委員会 (鹿児島大学郡元キャンパス・オンライン)  
会誌編集委員会 (鹿児島大学郡元キャンパス)  
21 日 (木) 2025PC カンファレンス (鹿児島大学郡元キャンパス)  
テーマ「教育・学習における常識の革命」  
22 日 (火) 2025PC カンファレンス (鹿児島大学郡元キャンパス)  
2025 年度一般社団法人 CIEC 定時社員総会 (鹿児島大学郡元キャンパス)  
23 日 (水) 2025PC カンファレンス (鹿児島大学郡元キャンパス)

2025 年 9 月

- 27 日 (土) 小中高部会「第 42 回サタデーカフェ」(オンライン)  
28 日 (日) 研究委員会(オンライン)

2025 年 10 月

- 18 日 (土) 小中高部会「第 43 回サタデーカフェ」(オンライン)

2025 年 11 月

- 4 日 (火) 三役会議(オンライン)  
15 日 (土) 2025 年度第 1 回理事会(オンライン)  
16 日 (日) 会誌編集委員会(オンライン)  
22 日 (土) 北海道 PC カンファレンス(旭川高専)  
29 日 (土) 小中高部会「第 44 回サタデーカフェ」(オンライン)

2025 年 12 月

- 1 日 (月) 『コンピュータ&エデュケーション Vol. 59』発行  
6 日 (土) 研究委員会 (オンライン)

2026 年 1 月

- 11 日 (日) 2026PC カンファレンス第 1 回実行委員会 (オンライン)  
 19 日 (月) 研究委員会 (オンライン)  
 24 日 (土) 小中高部会「第 45 回サタデーカフェ」(オンライン)

2026 年 2 月

- 13 日 (金) 第 1 回九州 PC カンファレンス実行委員会 (ハイブリッド)  
 20 日 (金) 研究委員会(オンライン)  
 21 日 (土) 小中高部会「第 46 回サタデーカフェ」(オンライン)  
 22 日 (日) 第 1 回「CIEC WiN インサイト・サロン」(オンライン)

2026 年 3 月

- 8 日 (日) 2026PC カンファレンス第 2 回実行委員会 (オンライン)  
 15 日 (日) 数理・データサイエンス・AI 教育研究部会 セミナー  
 (大学生協杉並会館・オンラインのハイブリッド)  
 2025 年度三役会議および第 2 回理事会 (オンライン)  
 17 日 (火) 国際活動委員会 韓国視察(1 日目) 高麗サイバー大学訪問・視察・日韓交流会  
 18 日 (水) 国際活動委員会 韓国視察(2 日目) 株式会社ビサン教育訪問  
 23 日 (月) 生協職員部会 世話人会  
 26 日 (木) 春季カンファレンス 2026 (東京理科大学・神楽坂キャンパス)

2026 年 4 月

- 1 日 (水) 2026PC カンファレンスサイト公開  
 2026PC カンファレンス論文投稿受付開始 (4 月 30 日締切)  
 2026PC カンファレンスイブニングセッション受付開始 (4 月 30 日締切)  
 CIEC 学会賞公募開始 (4 月 30 日締切)  
 5 日 (日) 会誌編集委員会 (オンライン)  
 7 日 (火) 2026PC カンファレンス教育・IT フェア出展申込開始(5 月 26 日締切)  
 8 日 (水) CIEC Win 部会  
 10 日 (金) 九州 PCC 実行委員会  
 19 日 (日) 2026PC カンファレンス第 3 回実行委員会 (オンライン)

2026 年 5 月

- 8 日 (金) CIEC 役員選挙公示  
 12 日 (火) PC カンファレンス 分科会時間割編集会議 (大学生協杉並会館)

2026 年 6 月

- 1 日 (月)      『コンピュータ&エデュケーション Vol. 60』 発行  
2026PC カンファレンス参加申し込み開始 (8 月 4 日締切)  
2026PC カンファレンス論文投稿開始 (6 月 30 日締切)
- 3 日 (水)      生協職員部会 世話人会 (オンライン)
- 5 日 (金)      第 2 回 CIEC WiN インサイト・サロン (オンライン)
- 14 日 (日)     CIEC 三役会議 (大学生協杉並会館・オンライン)  
2025 年度第 3 回理事会 (大学生協杉並会館・オンライン)  
2026PC カンファレンス第 4 回実行委員会 (オンライン)

以 上